



ユネスコスクール便り No.116

令和4年5月20日
大牟田市1社1スクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

令和4年度が始まって1ヶ月が過ぎ、各学校では新たな体制のもとでユネスコスクールとしての特色ある取組を進められていることと思います。今年度も本通信を通して、ESDに関する様々な情報や各学校の実践事例を発信してまいります。大牟田の子どもたちが持続可能な社会づくりの担い手となることを目指して、ESDの充実、発展に取り組んでいきましょう。

● 本年度の委員と主な行事

〈令和4年度 ユネスコスクール担当者会〉

会 長：溝上 尚子（天領小） 福永 嘉治（宮原中） 高口 直喜（高取小）
副 会 長：大谷 栄治（羽山台） 高倉 洋美（宮原中） 山本 貴文（天領小）
部 長：廣松 隆広（玉川小）
副 部 長：家永 健三（橋 中）
推進委員：篠倉 健太（大正小） 尾上 由紀子（手鎌小） 藤岡和子（甘木中）

〈ESDに関する主な行事予定〉

- ・ 8月20日（土） ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会
- ・ 1月14日（土） ユネスコスクール子どもサミット

教えて！
大牟田のESD



今年度から大牟田市に採用された先生方のためにも、ESDについて、改めて確認していきましょう。

Q：「ESD」や「ユネスコスクール」について教えてください

「ESD」とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育のことです。現在、世界には環境・人権・平和など様々な課題があります。「ESD」は、これらの課題を自分の問題として捉え、自分なりに考え、身近なところから行動することによって、その課題の解決をめざす学びです。このESDは、学習指導要領全体において基盤となる理念として組み込まれており、全ての学校で実践していくことが求められています。そして、このESDを推進する拠点校が「ユネスコスクール」です。大牟田市では全ての市立小・中・特別支援学校で、学校や地域の特色を生かしたESDに取り組み、全国に発信しています。

● 各学校の特色ある取り組み



福祉施設とオンライン交流 駛馬小学校

駛馬小学校では毎年、福祉施設の高齢者の方々と交流し、認知症について理解を深める学習をしています。昨年度はコロナ禍のため、福祉施設とオンラインでつながり、職員の方に高齢者の方との関わり方を教えていただいたり、施設の高齢者の方との交流を行ったりしました。交流前は「認知症は大変そう。」というイメージをもっている子もいましたが、職員の方も高齢者の方も笑顔で関わる姿を見て、「とても幸せそう。楽しそう。」と考え方が変わり、「ずっと笑顔でいてほしい。」という意識が生まれました。



施設の方とのオンライン交流



共同農園を作ろう

手鎌小学校

手鎌小学校では、学校で育てているヤギの糞を活用して堆肥を作り、地域の方と共に学校の共同農園での野菜栽培を行っています。また、4年生は、大牟田市環境業務課の方から段ボールコンポストでの堆肥作りについて教えていただき、学校に段ボールコンポストを設置しました。12月には、家庭から出る生ごみを入れて2ヶ月かけて作った堆肥を使って、野菜を育てました。また、3年生とともに「子ども朝市」を開き、収穫した野菜を保護者へ販売しました。子ども達はゴミを減らすために自分にできる事を実践し、農業に携わる人や食への感謝の気持ちを深めることができました。



子ども朝市の様子

★次号以降も、各校の特色ある取り組みを紹介していきます。